

目的

教育学部では本学国際協力推進プラットフォームと連携して2008年10月、2009年7月に「カンボジア王国の学校教育と教員養成に関する現地調査」を実施した。これらの調査から、カンボジアにおける理科教育の指導法改善、特に実験に対する教員の意識改革と技術支援の必要性と、児童の健康管理の観点からの保健体育および養護教員養成分野での教員研修の必要性が明らかになった。しかし、これらはいずれも調査に参加した日本人大学教員から見た課題であり、当事者であるカンボジアの教員関係者からの視点でとらえたものではなかった。

今回のワット・ボー小学校教員3名の招聘は、これらの日本人教員から見た課題分野における教育協力の可能性を、ワット・ボー小学校との協働のもとに、より具体的に追及するために実施したものである。ワット・ボー小学校はカンボジア・シエムリアップ市にある児童数約5000人、教員数約100人の公立小学校で、既に校長のイニシアチブのもとに音楽教育の導入などの様々な教育改善の取り組みを独自に進めている。また、山口大学職員と市民による「アジアの子教育基金・山口大学」が平成22年から開始した経済的に就学困難な児童への支援活動の対象校となっており、教育プロジェクトのパートナーとしての適正を備えた学校である。

今回の招聘にあたっては、より長期的な視点から、ワット・ボー小学校教員によるカンボジアにおける教育の現状紹介および懇談、教育学部授業での講演などを通しての、本学教職員および学生の国際教育協力に対する意識向上も目的とした。

招聘教員

上記の目的のため、ワット・ボー小学校教員による日本の小学校における教育活動および教員研修の理解、教育学部関係教員によるカンボジアの小学校教育の現状理解、および両者による率直な意見交換を軸に、滞在中のプログラムを組んだ。招聘教員は次に示す3名である。田中教諭は通訳も担当した。

招聘教員

ブン・キムチェン氏 校長、男性、50歳
地元のお寺や地域住民との連携、近隣の学校の教員も対象に含めた教員研修、保護者に対する研修など、様々な教育活動を独自に展開している。田中氏の協力を得て導入した音楽教育は、他のアジア諸国からも見学者が訪れるほど高い評価を得ている。

マー・パーラー氏 5年生担任、女性、37歳
ワット・ボー小学校の中では中心的存在である。同校の音楽教育を率先して実施しているほか、理科の教科書に実験に関する記述が増える5年生の担任でもあり、附属小学校における理科教育の実験の見学、教育学部における理科実験への参加の成果を生かせる立場にいる教員でもある。

田中千草氏 校長補佐
青年海外協力隊員としてワット・ボー小学校に勤務した後、保護者、教員等の強い希望により個人として再びワット・ボー小学校にもどった。同校の音楽教育導入の成功は、田中氏の貢献によるところが大きい。「アジアの子教育基金 山口大学」がワット・ボー小学校の児童の学費支援プログラムを委託している「カンボジア・アナコット基金」代表を務めている。

日程

- 11月26日(金) 21:00 シエムリアップ 発 (VN800) ハノイ経由
- 11月27日(土) 8:00 福岡着 (VN962) 福岡着「アジアの子教育基金・山口大学」会員宅にホームステイ
- 11月28日(日) ホームステイプログラム後山口へ移動

- 11月29日(月) 附属山口小学校見学 西村校長(教育学部教授)による案内
- | | | |
|-----|-------------|--|
| | 8:10-8:30 | マラソン大会に備えた朝の全校駆け足を見学、参加 |
| 1校時 | 8:30-9:15 | 5-2(萱野教諭)朝の会、理科「電流の働き」 |
| 2校時 | 9:25-10:10 | 5-2(萱野教諭)理科「電流の働き」実験
1-2(徳光教諭)算数「ひき算」 |
| 3校時 | 10:25-11:10 | 2-1(藤井教諭)体育「マットを使った運動遊び」 |
| 4校時 | 11:20-12:20 | 6-1(松岡教諭)道徳「寛容・謙虚」 |
| 給食 | 12:20-13:15 | 教室にて児童とともに給食後、ブン・キムチェン氏は児童とサッカー |
| | 13:15-14:05 | 保健室見学(縄田教諭)、サイレント掃除見学 |
| 5校時 | 14:05-14:50 | 3-1(川本教諭)算数「少数」、5-1(石村教諭)音楽 |
| 6校時 | 15:05-15:50 | 4-2(水津教諭)総合「山口新偉人伝〜里山再生〜」 |
- 11月30日(火) 10:00 山口大学学長表敬訪問
11:30 昼食
12:30~学校案内開始 商品資料館
13:45 大学会館着
14:00~15:30 山口大学生・教職員と懇談
- 12月1日(水) 10:20 教育学部理科実験指導法の授業見学「振り子の等時性」(池田教授)
13:00 フィールドにて理科の自然観察会(秋吉台、秋芳洞)(阿部元教授)
- 12月2日(木) 8:40 国際理解教育概説の授業でカンボジアの小学校教育について講義(石井教授)
10:20 古賀教育学部長表敬訪問
10:40 友定教授、佐伯客員准教授、研修中の養護教諭3名と意見交換
12:50 音楽科教育法I(高橋准教授)「和楽器」
14:30 共通教育合唱実践の授業見学(高橋准教授)
16:10 評価会、招聘教員と教育学部プロジェクト関係者の話し合い
- 12月3日(金) 8:30 附属山口小学校研究発表大会見学
18:00 「アジアの子教育基金 山口大学」メンバーと交流会
- 12月4日(土) 午前 ちゃぶ台コーホート研修発表準備
13:30 ちゃぶ台コーホート研修(霜川准教授、ちゃぶ台コーホート研修スタッフ、山口大学学生、若手教員他)
- 12月5日(日) 10:30 福岡発(VN961)サイゴン経由
16:55 シエムリアプ着(VN3821)

プログラム内容

1. 日本の小学校教育と教員研修について

附属山口小学校での見学と研究大会参加を通して、日本の小学校教育と教員研修の実態への理解を深めた。29日の見学では、授業参観のみならず児童の登校から下校までの小学校の一日を体験し、マラソン大会に向けての朝の駆け足、朝の会、給食、清掃のほか、児童による体育用具の準備と片付け、給食準備と片付けなど、授業以外の活動をも通して、日本の小学校教育について学んだ。朝の駆け足、朝の会での児童の司会によるフリートークからは、特別な施設や技術がなく、多人数であっても手軽にできる運動と、児童の発言力を高める活動についてのヒントを得た。列に並ぶ、自分たちで準備をするなども、カンボジアの学校に取り入れたい要素ということであった。授業では今回の目標の一つでもある理科の実験の印象が強く、教師が実験のプロセスと結果を講義するだけの現在のカンボジアの理

科の授業に、実際の実験と児童が考えるプロセスを取り入れる必要性があるという認識を深めた。既に導入している音楽の授業にも共通する問題は、教員にそのような授業を担当できる人材が不足していることである。

12月1日と2日は教育学部で教員養成段階における教科専門の授業を参観・体験したほか、共通教育科目の合唱指導を見学した。授業科目は理科実験指導法と音楽教育法である。理科実験指導法では、担当の池田教授が発展途上国の小学校理科の教科書によく掲載されている「振り子の等時性」と「ロウソクの火が消えたとき、水位の上昇はなぜ」に関する実験の内容を用意し、理科教科書にこの実験が掲載されている5年生を担当しているマー・パーラー教諭が、実際に学生とともに実験に参加した。同教諭はこの実験そのものを初めて体験したほか、実験の結果や問題点をいかに小学生に考えさせるかに焦点を当てた指導法に、附属山口小学校で見学した理科実験の授業との一貫性を見出していた。1日午後からは元教育学部教授の阿部弘和氏とともに秋吉台で環境のフィールド観察を行った。森林が再生しやすい日本と、一度失われると再生しにくいカンボジアの土壌の違い、秋吉台・秋芳洞や森林の形成過程などの説明が行われた。

音楽に関しては、音楽という教科自体がまだ存在せず、音楽教育の導入を試みている段階であるため、専門性の高い教科専門の授業よりも一般学生を対象とした共通教育の合唱指導に関心をもった。あらかじめ田中教諭から送られてきたカンボジアの楽曲を高橋准教授が4声の合唱に編曲し、受講生が4つのパートに分かれてパート練習をするなど、ワット・ボー小学校ではまだ導入されていない指導法についての知識も得、全員で合唱した時のハーモニーの美しさに、音楽教育に対する意欲を高めていた。

もう一つの目的であった保健体育分野に関しては、2009年の訪問時にブン・キムチェン校長から説明があった保健室の設立が、現時点では人的・物的資源難から困難になっていることが報告され、養護教諭養成がプロジェクトに発展する可能性は低くなった。2日午前の養護教員および友定教授とワット・ボー小学校教諭の話し合いでは、カンボジアの民間療法とそれを信じる大多数の教員の存在が、学校保健の推進を妨げている問題として浮き彫りとなった。小学生は病院にかかっても治療費は無料なのであるが、カンボジア人教員はそれを知らない、あるいは確信がもてないために、児童を医者連れて行かない。このようなシステムの存在を、行政が学校側にも医者側にも周知徹底することが必要であり、これは教育分野を超えた問題である。保健体育の授業に関しては、現地の気温の高さと運動に対する教員の意識の低さが問題となった。ワット・ボー小学校では既に朝の全校集会でのラジオ体操を実施しているが、このような授業外の時間帯で手軽にできる健康促進活動が提案できるかどうか教育学部教員にとっての課題となった。

現職教員の研修については、3日の附属山口小学校での研究大会、4日のちゃぶ台コーホート研修への参加を通して二つの異なる研修方式を体験した。ワット・ボー小学校でも近隣の教員も交えての現職教員研修を実施しているが、アルバイトをしなければ生活が成り立たないカンボジアの教員が抱える低賃金の問題から、授業時間外に長時間の研修を課すことの困難さが明らかになった。田中氏が音楽教育の教員研修で行っているような、常時開設しておいて教員が都合のよいときに短時間でも立ち寄って研修を受けられる方式、あるいは意識の高い少数の教員にターゲットを絞って特定のテーマ（例えば5年生の理科実験）について研修を行う方式が、現在のカンボジアで実施可能な方法であると考えられるが、教育学部教員が現地で短期間で行うには、後者のほうが適していると思われる。

2. 教育学部教員によるカンボジアの小学校教育の現状理解

3月にワット・ボー小学校を訪れる教育学部教員との話し合いは、理科教育に関しては12月1日、保健体育に関しては12月2日に行われた。理科教育に関しては、事前の教育学部教員の理解では、小学校段階では教科としてよりも教科横断型のテーマとして環境教育を促進していく方が適しているのではないかという意見があったが、今回の招聘によって、小学校段階でも既に教科書を用いた理科の授業が実施されており、5年生以上の学年では本来は児童自身が実験によって学ぶべき内容が掲載されていることが明らかになった。これらの実験は、実際には器具が不足していたり、教員自身に実験の体験がないために意味が認識されていなかったり、実践する自信がなかったりするために、行われていない。まずは教員自身が実験を体験することによって実践への自信をつけることが不可欠である。そのためにワット・ボー小学校で5年生を担当する教員12名を対象を絞って、5年生の教科書に登場する実験の中から簡易な装置で行うことができるものを体験してもらうことが重要ではないかという共通理解に至った。

保健体育分野に関しては前述のように、ワット・ボー小学校自体の保健室設立の試みが順調に進んでいないことが明らかになった。また、体育に関しても、既にカンボジアで体育促進に取り組んでいる日本のNGOや他大学の試みが、高い気温のなかで日焼けをしながら指導をすることを嫌う教員文化のために必ずしも成功しているとはいえない現状が、ワット・ボー小学校側から説明された。このため、この分野では、養護教諭養成以前に教員集団の学校保健に関する意識改革が必要なこと、運動は朝の集会時などに短時間でできる活動でなければ継続的な実践が望めないことが明らかになった。

3. 山口大学学生、一般教員に対するカンボジアの学校教育の紹介

教育学部の授業科目である国際理解教育概説、山口大学学生・教職員を対象とした懇談会、山口大学の教員志望者と現職若手教員の有志が参加しているちゃぶ台コーホート研修において、ワット・ボー小学校での実践を中心に、カンボジアにおける学校教育および田中教諭の教育協力活動について学ぶ機会を設けた。国際理解教育概説は選択の教職科目であるとともに教育学部国際理解教育コースの必修科目となっており、受講生の多くは2011年夏にカンボジアへの研修旅行に参加する予定である。ワット・ボー小学校での交流活動も予定されており、事前の情報を得る貴重な機会となった。また、懇談会、ちゃぶ台コーホート研修では、ブン・キムチェン校長による説明の後に活発な質疑応答が交わされ、海外での教育活動に積極的な関心を示す参加者も多く見られた。

今後の活動

今回の成果を生かすべく、2011年3月に教育学部および国際協力活動推進プラットフォームの支援を得て、教育学部の理科教育と保健体育の教員3名がカンボジアを訪問する予定である。理科教育分野ではワット・ボー教員との意見交換から、具体的に小学校5年生の教科書掲載実験を、問題解決型アプローチを用いて教員や児童に体験させる内容に絞られてきており、今回実験に参加したマー・パーラー教諭のクラスを中心に計画を進めている。保健体育分野に関しては2009年の調査時とはワット・ボー小学校の教育改革におけるプライオリティーが変化していることが判明したため、他のプロジェクトの情報なども収集しつつ、新たに可能性を探ることになった。

プロジェクトメンバー

石井由理（教育学部教授・国際協力活動推進プラットフォームメンバー）
和泉研二（教育学部教授・国際協力活動推進プラットフォームメンバー）
海野勇三（教育学部教授）
友定保博（教育学部教授）

協力者

阿部弘和（元教育学部教授）
西村正登（教育学部教授・教育学部附属山口小学校校長）
池田幸夫（教育学部教授）
霜川正幸（教育学部准教授）
高橋雅子（教育学部准教授）
佐伯里英子（教育学部客員准教授）
教育学部附属山口小学校



附属山口小学校 理科の実験を参観



附属山口小学校 体育の授業を参観



教育学部 理科実験指導法の授業に参加



秋吉台 森林の形成過程について学ぶ



教育学部授業 カンボジアの子どもたちについて紹介



附属小学校研究大会 音楽の授業を参観



附属小学校 図書室の運営について説明を受ける



ちやぶ台コーホート研修 質疑応答